

産業や生活を支え、共に創り、つなぐ ”小名浜港”

～「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながら
シンカ(深化、進化、新化)する豊かな社会へ～

令和8年9月
福島県

目 次

	1. 小名浜港長期構想について.....	2
	2. 小名浜港の目指すべき方向性(将来像).....	5
	3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ....	8
	4. 港湾利用ゾーニング.....	20
	5. ロードマップ.....	22

1. 小名浜港長期構想について

1. 小名浜港長期構想について(背景と目的)

背 景

- 小名浜港の港湾整備は平成29年3月に改訂された港湾計画(目標年次:令和10年代前半)に基づき進めている
- 近年の我が国の港湾をとりまく情勢変化は目まぐるしく、また小名浜港においても港湾脱炭素化推進計画を策定する(R6. 6)等、新たな要請や課題が顕在化している
- このため、小名浜港をとりまく状況及び課題を整理し、小名浜港における概ね20年～30年後を見据えた長期構想を検討する必要がある

目 的

小名浜港の港湾計画の改訂に向けて、概ね20年～30年後を見据えた長期構想を検討することを目的として「小名浜港長期構想検討委員会」を設置する

長期構想とは

港湾利用者、市民、行政機関、学識者など様々な港湾関係者の意見・要請をもとに概ね20～30年先の長期的視野に立った総合的な港湾空間の形成とそのあり方を構想・ビジョンとしてとりまとめたもの

港湾計画とは

概ね10～15年先における港湾空間のあるべき姿を実現することを目標とした中期計画

※港湾法第三条の三の規定に基づく法定計画

2. 小名浜港の目指すべき方向性(将来像)

2. 小名浜港の目指すべき方向性(将来像)

新たな長期構想の基本理念

産業や生活を支え、
共に創り、つなぐ
”小名浜港”

将来像の変化

次世代エネルギー
の受入れ

港湾における
カーボン
ニュートラル

ドライバーの
2024年
問題

社会情勢の変化

更なる
国際クルーズ船
の受入

激甚化・頻発化
する自然災害
への対応

担い手不足への
対応

現長期構想(H28.12策定)

高度な物流機能と交流空間を
兼ね備えた魅力ある港へ

小名浜港の要請・課題

物流
・滞船の解消
・大水深岸壁の確保
・野積場・倉庫・産業用地の確保 など

交流
・みなとの賑わい創出
・マリーナ施設の復旧・再建
・クルーズ客船の誘致と対応 など

防災
・航路・避難泊地の確保
・静穏度の確保
・災害時物流の確保 など

小名浜港の将来像

- 南東北地域から、東日本地域の物流拠点を目指す
- 観光振興を支える県内の交流拠点として、更なる飛躍を目指す
- 震災の教訓を忘れず、確実に機能する防災拠点を目指す

2. 小名浜港の目指すべき方向性(将来像)

環境配慮

物流拠点、交流拠点、防災拠点
のそれぞれにおいて、環境の
視点に配慮し取り組んでいく

物流拠点(新たなエネルギー政策を先導)

- ①次世代エネルギーの普及を支える受入拠点の形成
- ②滞船問題の解消に向けた対応
- ③港湾施設の老朽化への対応
- ④新たなニーズに対応した物流ターミナルの形成
- ⑤水産業の更なる振興につながる対応

交流拠点(地域のにぎわいを創出)

- ①アクアマリンパークの更なるにぎわいの創出
- ②小名浜港内の回遊性の創出
- ③クルーズ船の誘致と受入環境の整備・充実

防災拠点(安全と安心を提供)

- ①港湾内の安全性確保(既定計画の防波堤整備の推進)
- ②災害時の物流維持と背後地域を支援する機能の確保

福島県の将来像の実現を支える小名浜港

「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシンカ(深化、進化、新化)する豊かな社会

3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの 展開イメージ

3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

目指すべき方向性	現状と課題	
1-① 次世代エネルギーの普及を支える受入拠点の形成	全体	カーボンニュートラルポート実現への取組推進
	藤原心頭	バイオマス燃料貨物や、洋上・陸上風力部材等の再生可能エネルギー関連貨物の受入への対応
1-② 滞船問題の解消に向けた対応	東港地区	洋上・陸上風力部材等の再生可能エネルギー関連貨物の受入への対応
	東港地区	水素、アンモニア等の新エネルギー関連貨物やCCUS関連貨物受入への対応、建設発生土の有効活用
1-③ 港湾施設の老朽化への対応	全体	滞船問題への対応
	4～7号心頭	鉱産品、化学薬品を効率的に扱うための対応(大型船への対応)
1-④ 新たなニーズに対応した物流ターミナルの形成	東港地区	石炭輸送船の大型化への対応
	全体	老朽化した岸壁と荷役機械への対処
1-⑤ 水産業の更なる振興につながる対応	大剣心頭	コンテナ貨物量増加への対応
	藤原心頭	コンテナ輸送船の大型化への対応
2-① アクアマリンパークの更なるにぎわいの創出	全体	モーダルシフト実現可能性の検討
	全体	サーキュラーエコノミーに対応した港湾機能の確保
2-② 小名浜港内の回遊性を創出	全体	港湾労働者等の担い手不足への対応
	全体	小名浜港周辺企業の撤退・事業再編への対応
2-③ クルーズ船の誘致と受入環境の整備・充実	漁港区	漁港区の利便性向上(施設間のアクセス性の向上等)
	漁港区	大型漁船への対応
3-① 港湾内の安全性確保(既定計画の防波堤整備の推進)	漁港区	水産物の輸出への対応
	アクアマリンパーク	アクアマリンパークのにぎわい向上、マリンレジャー等を楽しめる親水空間の確保創出
3-② 災害時の物流維持と背後地域を支援する機能の確保	全体	公共交通機関の充実、駐車場の確保を含めた交通対策
	サマリナ	マリンレジャーを楽しめる空間の提供
	全体	来訪者に回遊を促す仕掛けの創出
	アクアマリンパーク	クルーズ船の一層の誘致と受入体制の充実および環境整備
	全体	大型クルーズ船の受入環境の整備
	全体	航行船舶の安全性確保、荷役作業時の安全性確保
	大剣地区	大規模災害時のコンテナ貨物受入機能の維持・継続
	全体	港湾BCP計画の基づく防災体制の充実
	東港地区	東港の津波への避難対策

3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

1-① 次世代エネルギーの普及を支える受入拠点の形成

【背景・現状】

- ・小名浜港では令和6年6月に**港湾脱炭素化推進計画**を策定。
温室効果ガス排出量を2050年に実質ゼロとする目標設定。

【実現に向けた取組】※福島県総合計画 主要施策 しごと分野 政策7

カーボンニュートラルポート実現への取組推進

○管理棟・照明施設等のLED化、脱炭素に配慮した荷役機械の整備、CO₂排出量の的確な検証・把握、脱炭素に配慮した電気・燃料等の活用
バイオマス燃料貨物や、洋上・陸上風力部材等の再生可能エネルギー関連貨物の受入等への対応（藤原ふ頭、東港地区）

○再生可能エネルギー関連貨物の受入・生産・積出が可能となる係留施設・野積場等の整備・改良、風力複数基地港湾に向けた検討
水素、アンモニア等の新エネルギー関連貨物やCCUS関連貨物受入への対応、建設発生土の有効活用（東港地区）

○建設発生土を有効利用し、水素、アンモニア等の新エネルギー関連貨物の受入やCO₂輸送の対応が可能となる係留施設・貯蔵施設の整備

【課題及び要請等】

- ・カーボンニュートラルポート実現への取組推進
- ・水素、アンモニア等の新エネルギー関連貨物やCCUS^{*}関連貨物、
バイオマス燃料貨物や再生可能エネルギー関連貨物の受入等への対応
- ・建設発生土の有効活用



*CCUSとは
「CCS(Carbon dioxide Capture and Storage: 二酸化炭素(CO₂)回収・貯留)」と「CCU(Carbon dioxide Capture and Utilization: 二酸化炭素(CO₂)回収・利用)」の2つの言葉を合わせたもの。

東港地区における新エネルギー受入拠点のイメージ

下図：Copyright(c)
NTT空間情報
All Rights Reserved



3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

1-② 滞船問題の解消に向けた対応

【背景・現状】

・船舶の大型化により-12m以上の水深の岸壁の利用が集中し、滞船が生じている。

【課題及び要請等】

- ・滞船問題への対応
- ・鉱産品、化学薬品を効率的に扱うための対応(大型船への対応)
- ・石炭輸送船の大型化への対応

【実現に向けた取組】※福島県総合計画 主要施策 しごと分野 政策7

滞船問題への対応
○荷役体制の充実(利用調整等)
鉱産品、化学薬品を効率的に扱うための対応(大型船への対応)(4～7号ふ頭)
○大型船に対応した岸壁の改良を検討 ○取扱貨物に応じた利用埠頭の見直し(貨物の再配置)
石炭輸送船の大型化への対応(東港地区)
○大型船に対応した岸壁の整備



3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

1-③ 港湾施設の老朽化への対応

【背景・現状】

・多くの岸壁、荷役機械が供用後40年以上を経過しており、老朽化が進んでいる。

【課題及び要請等】

・老朽化した岸壁と荷役機械への対処

【実現に向けた取組】

・老朽化した岸壁と荷役機械への対処(全体)

○老朽化した岸壁の計画的な維持・補修

○設備更新に合わせて、作業効率が良く、環境負荷の少ない脱炭素に配慮した荷役機械の導入



3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

1-④ 新たなニーズに対応した物流ターミナルの形成

【背景・現状】

- ・**コンテナ取扱量の増加**に伴い、コンテナ蔵置エリアの面積が逼迫している。
- ・コンテナ船の大型化により岸壁水深の不足が懸念されている。
- ・トラックドライバー不足(2024年問題)により、物流機能の低下が懸念されている。
- ・港湾労働者不足により物流機能の低下が懸念される。
- ・小名浜港周辺企業の撤退や事業再編により取扱い貨物量の減少が懸念される。

【課題及び要請等】

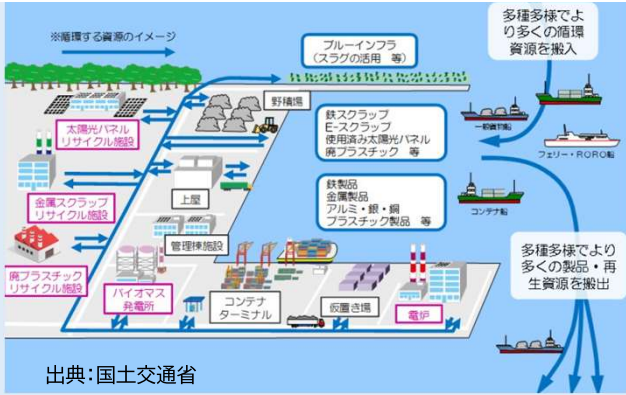
- ・コンテナ輸送船の大型化やコンテナ貨物量増加への対応
- ・モーダルシフト実現可能性の検討や
 サーキュラーエコノミーに対応した港湾機能の確保
- ・港湾労働者の担い手不足への対応
- ・新規貨物の獲得

【実現に向けた取組】 ※福島県総合計画 主要施策 しごと分野 政策7

- ・コンテナ輸送船の大型化やコンテナ貨物量増加への対応(大剣地区、藤原ふ頭地区)
 ○岸壁の改良(大水深化)やふ頭用地の拡幅に関する検討
- ・モーダルシフト実現可能性の検討やサーキュラーエコノミーに対応した港湾機能の確保
 ○モーダルシフトの実現可能性について検討、サーキュラーエコノミー関連貨物に対応した港湾機能の強化
- ・港湾労働者等の担い手不足への対応(港湾ロジスティクスを支える担い手の確保)
 ○コンテナ荷役機械の自動化に向けた検討やサイバーポート等の情報通信技術を利用した業務の効率化を図り、高い生産性を有する持続可能なターミナルを形成 / ○港湾労働者等が働きやすい環境整備の検討
- ・小名浜港周辺企業の撤退・事業再編への対応
 ○新規貨物獲得や航路誘致に向けたポートセールスの推進



循環経済拠点港湾(サーキュラーエコノミーポート)のイメージ



港湾における情報通信技術の活用例

3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

1-⑤ 水産業の更なる振興につながる対応

【背景・現状】

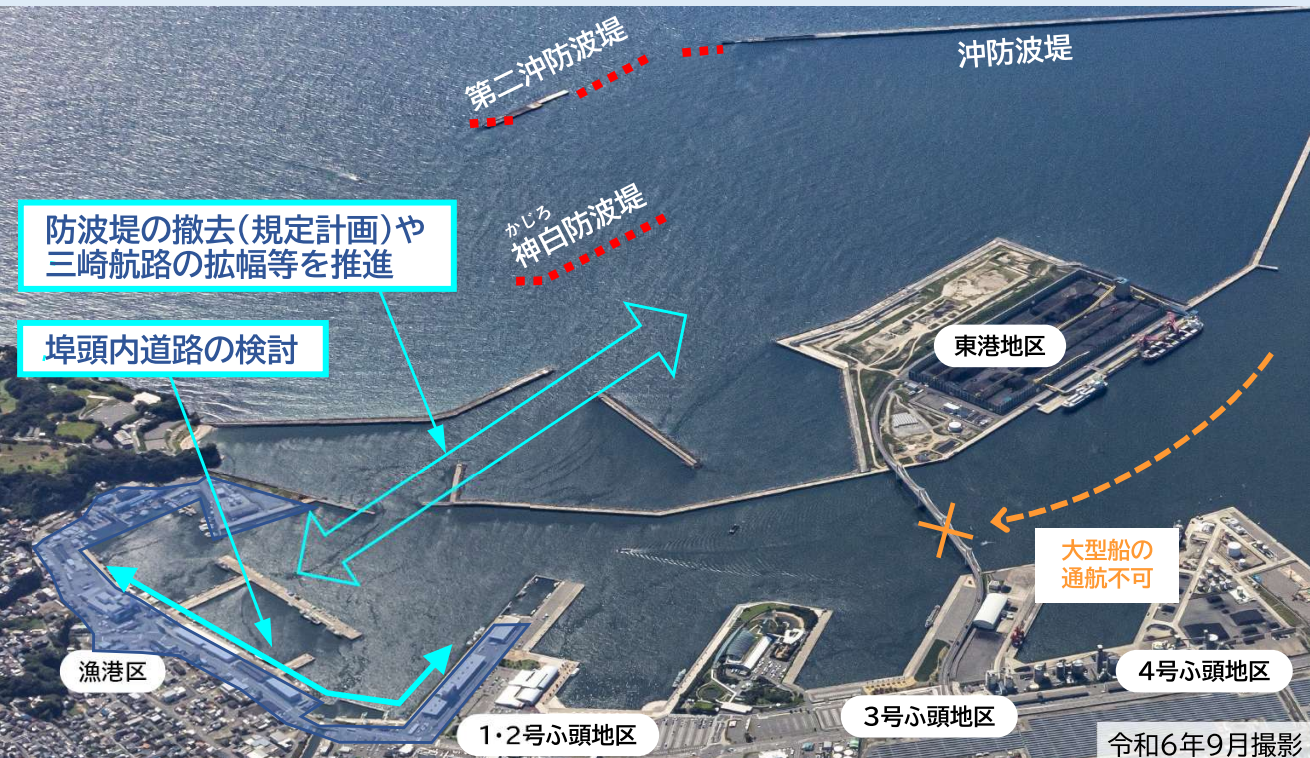
- ・漁港区の施設間のアクセスが悪く、非効率な漁業活動を強いられている。
- ・マリナブリッジ整備に伴い、橋梁の下を大型漁船が通過できなくなったため、漁港区に大型漁船が入港できず、三崎航路の拡幅が要請されている。

【課題及び要請等】

- ・漁港区の利便性向上(施設間のアクセス性向上)
- ・大型漁船への対応
- ・水産物の輸出への対応

【実現に向けた取組】

・漁港区の利便性向上(施設間のアクセス性向上)	○漁港区内の利便性向上を図るため、埠頭内道路を検討
・大型漁船への対応	○防波堤の撤去(既定計画)や三崎航路の拡幅等を推進
・水産物の輸出への対応	○水産物の小名浜港利用に向けた改善策の検討



水産物の小名浜港利用に向けた改善策の検討 (例:PRや施設整備による流通販売の拡大)

サバ・イワシの加工品

首都圏での常盤もの等のPRイベント

【荷捌き加工流通倉庫】

- ・1区画375㎡×8区画(8業者入居予定)
- ・閉鎖式とし外部からの侵入を防止。
- ・加工室は温度管理により細菌繁殖を防止。
- ・荷捌き・加工施設からの排水を適切かつ効率的に処理。

Frozen Fish

MEL認証サバの加工品

福島鮮魚便コーナー

【まき網漁具漁網倉庫】

- ・506㎡×3区画(1区画2船団)
- ・福島県漁業協同組合所属船の共同利用施設であり、自県船及び他県船用の倉庫とし、まき網船の小名浜水揚げを増加させる。
- ・天井クレーン付きで、作業の軽減が出来る。

都市部店舗での解体販売

船上凍結品サバの刺身

出典:福島県地域漁業復興プロジェクト漁業復興計画(第2期:小名浜地区まき網部会)

3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

2-① アクアマリンパークの更なるにぎわいの創出

【背景・現状】	【課題及び要請等】
・震災復興、地方創生、賑わい創出が求められている。 （福島県土木・建築総合計画、令和3年12月）	・アクアマリンパークのにぎわい向上 ・公共交通機関の充実 ・マリンレジャー等を楽しめる親水空間の確保 ・駐車場の確保を含めた交通対策

【実現に向けた取組】 ※福島県総合計画 主要施策 しごと分野 政策7

・アクアマリンパークのにぎわい向上 ・マリンレジャー等を楽しめる親水空間の確保	○利用者の安全確保や集客力向上のために、既存施設の更新 ○官民一体となったにぎわい創出に向けた取組みの促進 ○寄港するクルーズ船の集客効果を利用した地域の活性化 ○海からアクセスできる施設の整備や親水空間の検討 ○マリンブリッジのイベント時における一部開放の実施
・公共交通機関の充実 ・駐車場の確保を含めた交通対策	○公共交通機関の充実と駐車場(自家用車・バイク等)の確保に向けた関係機関との連携

官民一体となったにぎわい創出の取組

海からアクセスできる施設の整備や親水空間の検討

既存施設の更新

アクアマリンパーク
(1～3号埠頭の緑地・広場)

道の駅
いわき・ら・ら・ミュウ

小名浜さんかく倉庫

小名浜マリンブリッジ

アクアマリンふくしま

サッカースタジアム
(建設候補地)

大型商業施設

公共交通機関の充実等に向けた関係機関との連携

クルーズ船の集客効果を利用した地域活性化

サッカースタジアムのイメージ
出典:いわきFCホームページ

●:「いわき小名浜みなとオアシス」の構成施設

令和6年9月撮影

3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

2-② 小名浜港内の回遊性を創出

【背景・現状】

- ・いわきサンマリーナの再整備を通じて、震災前のように海洋レジャーやマリンスポーツに親しめる空間利用が求められている。

【課題及び要請等】

- ・いわきサンマリーナにおけるマリンレジャーを楽しめる空間の提供
- ・来訪者に回遊を促す仕掛けの創出

【実現に向けた取組】

- ・いわきサンマリーナにおけるマリンレジャーを楽しめる空間の提供

○いわきサンマリーナの再整備を推進(海洋レジャーやマリンスポーツを楽しめる空間づくり)

- ・来訪者に回遊を促す仕掛けの創出

○アクアマリンパークといわきサンマリーナの2地点を活用したイベントの誘致や交通機能を検討(小名浜デイクルーズの活用 等)



3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

2-③ クルーズ船の誘致と受入環境の整備・充実

【背景・現状】	【課題及び要請等】
・国際クルーズの再開を経て、<u>小名浜港</u>にも年1回程度寄港している。 ・また、近年のクルーズ船は、主に3号ふ頭に接岸している。	・クルーズ船の一層の誘致と受入体制の充実および環境整備 ・大型クルーズ船の受入環境の整備

【実現に向けた取組】 ※福島県総合計画 主要施策 しごと分野 政策7

・クルーズ船の一層の誘致と受入体制の充実および環境整備 ・大型クルーズ船の受入環境の整備	○クルーズ船の一層の誘致に向けたポートセールスの推進 ○大型のクルーズ船も受入可能なクルーズターミナルの検討
--	--

東港地区

大型のクルーズ船も受入可能なクルーズターミナルの検討

5・6号ふ頭地区

道の駅 いわき・ら・ら・ミュウ

アクアマリンふくしま

小名浜 さんかく倉庫

1・2号ふ頭地区

3号ふ頭地区

4号ふ頭地区

大型商業施設

サッカースタジアム (建設候補地)

クルーズ船の一層の誘致に向けたポートセールスの推進

令和6年9月撮影

外航クルーズ船寄港時のようす(令和7年)

クルーズ船接岸状況(3号埠頭)

係船柱の整備

多言語対応の案内表示板

3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

3-① 港湾内の安全性確保(既定計画の防波堤整備の推進)

【背景・現状】

- ・沖側の防波堤が未整備のため、三崎航路を拡幅ができない。
- ・東京湾から金華山沖の間には荒天時避難に適した港湾が少ないため、小名浜港は荒天時の避難港として航行船舶に利用されている。

【課題及び要請等】

- ・航行船舶の安全性確保
- ・荷役作業時の安全性確保

【実現に向けた取組】 ※福島県総合計画 主要施策 しごと分野 政策7

- ・航行船舶の安全性確保
- ・荷役作業時の安全性確保

- 外郭施設の整備推進(沖防波堤、第二沖防波堤、神白防波堤、大剣防波堤、大剣防波堤(波除)、2号ふ頭防波堤(波除))
- 定期的な浚渫工事による水深の確保



3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ

3-② 災害時の物流維持と背後地域を支援する機能の確保

【背景・現状】

- 今後30年以内の日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生確率は、茨城県沖では80%程度と想定されており、大規模地震や津波の発生の逼迫性が高まっている。

【課題及び要請等】

- 大規模災害時のコンテナ貨物受入機能の維持・継続
- 港湾BCP計画に基づく防災体制の充実
- 東港の津波への避難対策

・大規模災害時のコンテナ貨物受入機能の維持・継続	○コンテナターミナルにおいて幹線貨物用耐震強化岸壁を整備
・港湾BCP計画に基づく防災体制の充実 ・東港の津波への避難対策	○情報伝達訓練による関係者間での防災体制の充実 ○災害時の他港との連携に向けた輸送能力の確保や港湾機能の充実 ○東港の津波避難時の施設整備、津波避難ルート等の避難体制の確保



3. 長期構想実現に向けた将来プロジェクトの展開イメージ(まとめ)

P.19

課題	実現に向けた取組
1ー① 次世代エネルギーの普及を支える受入拠点の形成 ・カーボンニュートラルポート実現への取組推進 ・バイオマス燃料貨物や、洋上・陸上風力部材等の再生可能エネルギー関連貨物の受入等への対応(藤原ふ頭、東港地区) ・水素、アンモニア等の新エネルギー関連貨物やCCUS関連貨物受入への対応、建設発生土の有効活用(東港地区)	○管理棟・照明施設等のLED化、脱炭素に配慮した荷役機械の整備、CO2排出量の的確な検証・把握、脱炭素に配慮した電気・燃料等の活用 ○再生可能エネルギー関連貨物の受入・生産・積出が可能となる係留施設・野積場等の整備・改良、風力複数基地港湾に向けた検討 ○建設発生土を有効利用し、水素、アンモニア等の新エネルギー関連貨物の受入やCO2輸送の対応が可能となる係留施設や貯蔵施設の整備
1ー② 滞船問題の解消に向けた対応 ・滞船問題への対応 ・鉱産品、化学薬品を効率的に扱うための対応(大型船への対応)(4～7号ふ頭) ・石炭輸送船の大型化への対応(東港地区)	○荷役体制の充実(利用調整等) ○大型船に対応した岸壁の改良を検討 ○取扱貨物に応じた利用埠頭の見直し(貨物の再配置) ○大型船に対応した岸壁の整備
1ー③ 港湾施設の老朽化への対応 ・老朽化した岸壁と荷役機械への対処(全体)	○老朽化した岸壁の計画的な維持・補修 ○設備更新に合わせて、作業効率が良く、環境負荷の少ない脱炭素に配慮した荷役機械の導入
1ー④ 新たなニーズに対応した物流ターミナルの形成 ・コンテナ輸送船の大型化やコンテナ貨物量増加への対応(大剣地区、藤原ふ頭地区) ・モーダルシフト実現可能性の検討やサーキュラーエコノミーに対応した港湾機能の確保 ・港湾労働者等の担い手不足への対応／・小名浜港周辺企業の撤退・事業再編への対応	○岸壁の改良(大水深化)やふ頭用地の拡幅に関する検討 ○モーダルシフトの実現可能性について検討、サーキュラーエコノミー関連貨物に対応した港湾機能の強化 ○コンテナ荷役機械の自動化に向けた検討やサイバーポート等の情報通信技術を利用した業務の効率化を図り、高い生産性を有する持続可能なターミナルを形成/○港湾労働者等が働きやすい環境整備の検討 ○新規貨物獲得や航路誘致に向けたポートセールスの推進
1ー⑤ 水産業の更なる振興につながる対応 ・漁港区の利便性向上(施設間のアクセス性向上) ・大型漁船への対応／・水産物の輸出への対応	○漁港区内の利便性向上を図るため、埠頭内道路を検討 ○防波堤の撤去(既定計画)や三崎航路の拡幅等を推進 ○水産物の小名浜港利用に向けた改善策の検討
2ー① アクアマリンパークの更なるにぎわいの創出 ・アクアマリンパークのにぎわい向上 ・マリンレジャー等を楽しめる親水空間の確保 ・公共交通機関の充実／・駐車場の確保を含めた交通対策	○利用者の安全確保や集客力向上のために、既存施設の更新 ○官民一体となったにぎわい創出に向けた取組みの促進 ○寄港するクルーズ船の集客効果を利用した地域の活性化 ○海からアクセスできる施設の整備や親水空間の検討 ○公共交通機関の充実と駐車場(自家用車・バイク等)の確保に向けた関係機関との連携
2ー② 小名浜港内の回遊性を創出 ・いわきサンマリーナにおけるマリンレジャーを楽しめる空間の提供 ・来訪者に回遊を促す仕掛けの創出	○いわきサンマリーナの再整備を推進(海洋レジャーやマリンスポーツを楽しめる空間づくり) ○アクアマリンパークといわきサンマリーナの2地点を活用したイベントの誘致や交通機能を検討(小名浜デイクルーズの活用 等)
2ー③ クルーズ船の誘致と受入環境の整備・充実 ・クルーズ船の一層の誘致と受入体制の充実および環境整備 ・大型クルーズ船の受入環境の整備	○クルーズ船の一層の誘致に向けたポートセールスの推進 ○大型のクルーズ船も受入可能なクルーズターミナルの検討
3ー① 港湾内の安全性確保(既定計画の防波堤整備の推進) ・航行船舶の安全性確保／・荷役作業時の安全性確保	○外郭施設の整備推進(沖防波堤、第二沖防波堤、神白防波堤、大剣防波堤、大剣防波堤(波除)) ○定期的な浚渫工事による水深の確保
3ー② 災害時の物流維持と背後地域を支援する機能の確保 ・大規模災害時のコンテナ貨物受入機能の維持・継続 ・港湾BCP計画に基づく防災体制の充実 ・東港の津波への避難対策	○コンテナターミナルにおいて幹線貨物用耐震強化岸壁を整備 ○情報伝達訓練による関係者間での防災体制の充実 ○災害時の他港との連携に向けた輸送能力の確保や港湾機能の充実 ○東港の津波避難時の施設を整備、津波避難ルート等の避難体制の確保

4. 港湾利用ゾーニング

4. 港湾利用ゾーニング

水産ゾーン

- 漁港区内の利便性向上を図るための埠頭内道路の検討
- 防波堤の撤去(既定計画)や三崎航路の拡幅等を推進
- 水産物の小名浜港利用に向けた改善策の検討

交流拠点ゾーン

- 利用者の安全確保や集客力向上のための既存施設の更新
- 官民一体となったにぎわい創出に向けた取組みの促進
- 寄港するクルーズ船の集客効果利用した地域活性化
- 海からアクセスできる施設の整備や親水空間の検討
- 公共交通機関の充実と駐車場の確保に向けた関係機関との連携
- いわきサンマリーナの再整備を推進
- アクアマリンパークといわきサンマリーナの2地点を活用したイベントの誘致や交通機能の検討
- クルーズ船の一層の誘致に向けたポートセールスの推進
- 大型のクルーズ船も受入可能なクルーズターミナルの検討

防災拠点形成に係る対応

- 航行船舶の安全性と荷役作業時の安全性の確保のための外郭施設の整備推進
- コンテナターミナルにおける幹線貨物用耐震強化岸壁の整備
- 災害時の他港との連携に向けた輸送能力の確保や港湾機能の充実
- 東港の津波避難時の施設整備、津波避難ルート等の避難態勢の確保

物流関連ゾーン

- 管理棟・照明施設等のLED化、脱炭素に配慮した荷役機械の整備
- 再生可能エネルギー関連貨物の受入が可能となる係留施設・野積場等の整備・改良
- 建設発生土を有効活用し、水素、アンモニア等の新エネルギー関連貨物の受入やCO2輸送の対応が可能となる係留施設や貯蔵施設の整備
- 取扱貨物に応じた利用埠頭の見直し(貨物の再配置)
- 老朽化した岸壁の計画的な維持・補修
- コンテナ輸送船の大型化やコンテナ貨物量増加への対応として、岸壁の改良(大水深化)やふ頭用地の拡幅
- サーキュラーエコノミー関連貨物に対応した港湾機能の強化
- コンテナ荷役機械の自動化に向けた検討やサイバーポート等の情報通信技術を利用した業務の効率化を図り、高い生産性を有する持続可能なターミナルの形成



5. ロードマップ

課題	実現に向けた取組	短・中期(～20年)	長期(～30年)
1-① 次世代エネルギーの普及を支える受入拠点の形成	○管理棟・照明施設等のLED化など ○再生可能エネルギー関連貨物の受入等の施設整備・改良など ○新エネルギー関連貨物の受入等にかかる係留施設や貯蔵施設の整備		
1-② 滞船問題の解消に向けた対応	○荷役体制の充実(利用調整等) ○取扱貨物に応じた利用埠頭の見直し(貨物の再配置) ○大型船に対応した岸壁の整備		
1-③ 港湾施設の老朽化への対応	○老朽化した岸壁の計画的な維持・補修 ○脱炭素に配慮した荷役機械の導入		
1-④ 新たなニーズに対応した物流ターミナルの形成	○岸壁の改良(大水深化)やふ頭用地の拡幅に関する検討 ○モーダルシフトの実現可能性について検討 ○サーキュラーエコノミー関連貨物に対応した港湾機能の強化 ○高い生産性を有する持続可能なターミナルの形成 ○港湾労働者等が働きやすい環境整備の検討 ○新規貨物獲得や航路誘致に向けたポートセールスの推進		
1-⑤ 水産業の更なる振興につながる対応	○漁港区内の利便性向上を図るため、埠頭内道路を検討 ○防波堤の撤去(既定計画)や三崎航路の拡幅等を推進 ○水産物の小名浜港利用に向けた改善策の検討		
2-① アクアマリンパークの更なるにぎわいの創出	○利用者の安全確保や集客力向上のために、既存施設の更新 ○官民一体となったにぎわい創出に向けた取組みの促進 ○寄港するクルーズ船の集客効果を利用した地域の活性化 ○海からアクセスできる施設の整備や親水空間の検討 ○公共交通機関の充実と駐車場の確保に向けた関係機関との連携		
2-② 小名浜港内の回遊性を創出	○いわきサンマリーナの再整備を推進 ○2地点を活用したイベントの誘致や交通機能を検討		
2-③ クルーズ船の誘致と受入環境の整備・充実	○クルーズ船の一層の誘致に向けたポートセールスの推進 ○大型のクルーズ船も受入可能なクルーズターミナルの検討		
3-① 港湾内の安全性確保(既定計画の防波堤整備の推進)	○外郭施設の整備推進 ○定期的な浚渫工事による水深の確保		
3-② 災害時の物流維持と背後地域を支援する機能の確保	○コンテナターミナルにおいて幹線貨物用耐震強化岸壁を整備 ○情報伝達訓練による関係者間での防災体制の充実 ○災害時の他港との連携に向けた輸送能力の確保や港湾機能の充実 ○東港の津波避難時の施設を整備、津波避難ルート等の避難体制の確保		

※「継続的に実施していく取組」とは、「長期(～30年)」で区切るのではなく、その後も継続的に実施していく取組のこと。
 ※具体的な内容については、今後の情勢変化を注視するとともに、港湾計画改訂時等に適宜見直していきます。